特別講演 7

10月9日(月・祝)　9:00～10:00　第1会場(東京国際フォーラム A棟 ホールA)
座長：東京都薬剤師会相談役 / 日薬アンチ・ドーピング委員会 委員長　原　博

SL7　現場で働く薬剤師と学会との繋がり

奥(おく)　直人(なおと)
公益社団法人日本薬学会 会頭

日本薬学会は、薬学という共通基盤に立脚した学術団体として、薬学教育、創薬、育薬までを包括し、皆様の期待に応えるべく学会活動を進めています。超高齢社会を迎え、今後の薬剤師に対する国民の期待が増しています。薬学教育改革を基に、6年制薬剤師教育課程が開始され10年を経過しました。この間、薬剤師教育を念頭に置いた実践的な参加型実務実習が、日本薬剤師会等のご協力の基に実践されて来ました。2013年には学習成果基盤型教育を基にモデル・コアカリキュラムが改訂され、卒業時の薬学生に求められる資質を念頭に置いた教育が実施されています。「薬剤師として求められる基本的な資質」の中には、薬剤師としての心構えや実践的能力に加え、基礎的な科学力、研究能力、自己研鑽、教育能力が明記されました。近年、生物製剤、再生医療、個別化医療が発展し、医療が急速に高度化しつつあります。薬剤師には、薬の基礎知識に加え最新の知見を伝達できる総合的な能力が求められつつあります。また超高齢社会を反映し、今後の高齢者医療・介護の問題を念頭に、在宅医療の推進が行われ、2025年を目標とした「患者のための薬局ビジョン」が提案されました。地域包括ケアシステムの中で、薬剤師に対する国家や国民の期待が増していることを感じます。地域で活躍できる質の高い医療人であり続けるためにも、研究マインドと生涯研鑽は重要と考えています。

日本薬学会では、皆様に役立つような薬の標的や薬効発現機構などに関するコンテンツを含む、ファルマシアを刊行しています。また年会、医療薬科学部会の医療薬学フォーラムやシンポジウムでは、薬剤師の皆様の自己研鑽に役立つ内容が用意されています。皆様が薬局や病院で得た成果発表の場や情報交換の場として、年会や支部、部会を活用して頂ければと思います。また薬学雑誌では、医療や教育の分野に限り英文掲載が可能であり、ケーススタディーなども掲載できるため、医療薬学分野の投稿が急増しています。皆様には、英文雑誌2誌も含め、日本薬学会を活用していただければ、必ず多くのメリットがあることをご理解いただけると思います。

日本薬剤師会の皆様には、今後も育薬等に関する研究面で、学会活動等にも参加して頂きたいと願っています。日本薬剤師会と日本薬学会との連携を発展させ、我が国の薬学や薬剤師のプレゼンスをますます高めていければと考えています。

略歴

1975年　東京大学薬学部卒業
1980年　東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了(薬学博士)
1981年　米国ノースウエスタン大学博士研究員/1982年同助手
1983年　摂南大学薬学部講師/1987年同助教授
1991年　静岡県立大学薬学部助教授/1998年同教授
　　この間2007-2011年　薬学部長、2013-15年　副学長、
　　2015-17年　大学院薬食生命科学総合学府長・薬学研究院長

日本薬学会(会頭)、日本DDS学会(理事)、日本生化学会(評議員)、日本薬剤学会 (評議員)、また薬学共用試験センター(理事長)、薬学教育評価機構(理事)、厚生労働省医道審議会薬剤師分科会委員、日本学術会議連携会員

これまでに文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会薬学専門委員および主査、科学技術・学術審議会専門委員学術分科会科学研究費補助金審査部会委員、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員、厚生労働省：薬剤師国家試験委員、医道審議会薬剤師国家試験出題基準改訂部会長代理;医薬品医療機器総合機構基礎研究評価委員会専門委員、科学委員会委員、静岡県薬事審議会長、静岡県薬事振興会顧問、発明協会静岡県支部理事他を歴任。受賞歴としては1995年度日本薬学会奨励賞、2012年度日本DDS学会永井賞、2015年度日本薬剤学会タケル・アヤ・ヒグチ記念賞、2016年度日本薬学会賞等を受賞。